

モーツァルト / Wolfgang Amadeus Mozart



モーツァルト生誕200年記念
東ドイツ 10ペニヒ 1988年

古典派(整然とし、調和がとれた形式的な音楽を重んずる楽派)に属する作曲家です。ザルツブルク(現オーストリア)の出身で、秀でた音楽の才能があったため、幼少のころからヨーロッパ各地で演奏活動をしました。25歳の時に移住したウィーンでは、フリーの音楽家として作曲や演奏にいそしみ、数々の傑作を発表しました。

これらの作品は世界中の人に親しまれ、モーツァルトは国内外に誇る作曲家としてオーストリアの代表的な人物となっています。

お札には、オーストリアで活躍した男性文化人をモチーフとしたシリーズで肖像に採用されています。



オーストリア 5000シリング 1988年

切手にみるモーツァルトの作品

モーツァルトが生産に作曲した作品は600曲を超えるといわれ、そのジャンルは、器楽曲や声楽曲、オペラなど、多岐にわたっています。



1783年ころ作曲の「トルコ行進曲」の楽譜とモーツァルト
トルコ 寄付金切手 1500+100リラ 1991年



1791年に作曲したオペラ「魔笛」に登場するキャラクターのババゲーノ(魔剣し男)とモーツァルト
ドイツ モーツァルト没年200年記念 100ペニヒ 1991年



1787年に作曲したイタリアが舞台のオペラ「ドン・ジョバンニ」の一幕とモーツァルト
モナコ 5フラン 1978年



オペラ「ドン・ジョバンニ」を初演したチェコ・プラハにあるエステート劇場とモーツァルト
チェコスロバキア 1コルナ 1991年

ベートーヴェン / Ludwig van Beethoven

「楽聖」(偉大な音楽家に対する称号)と呼ばれ、モーツァルトと同じく古典派に属する音楽家です。

ベートーヴェンが活躍したのは、古典派からロマン派への過渡期にあたりますが、古典派様式を踏襲し、ソナタ形式や対位法を

用いた音楽を作りつづけました。

経済的に恵まれなかった家庭環境や、音楽家として致命傷といえる難聴に悩まされながらも、大作を作曲しつづけたベートーヴェンは、世界的な音楽家として知られています。



日本におけるドイツ年記念
日本 80円 2006年



ドイツ 10ペニヒ 1970年



旧ソ連 10カペイカ 1970年



生誕200年記念
東ドイツ 1マルク 1970年



寄付金付き切手
オーストリア 7.5クローネ 1922年



生誕200年記念
ハンガリー 1フォリント 1970年



生誕225年記念
オーストリア 7シリング 1995年

ベートーヴェンと同時代に生きたモーツァルトが、天賦の才能を発揮して音楽史に名を残したのと異なり、ベートーヴェンはさまざまな困難の中で音楽活動を続け、楽聖と称されるようになりました。

ドイツでは、お札に特定の人物が描かれることはほとんどなく、1980年に初めて文化人が登場しました。その中には音楽家が含まれていましたが、採用されたのは女性音楽家でした。しかしながら、傑作を世に残したベートーヴェンをたたえ、出身国のドイツをはじめ、世界各国の切手の図柄に肖像が採用されています。

ショパン / Frédéric François Chopin

ポーランドが生んだ偉大な作曲家・ピアニストとして、世界中に名前が知られています。

ショパンの作るほとんどの曲がピアノ曲で、半音階的な和音や転調による詩的なメロディからピアノの詩人と呼ばれています。

また、ロマン派（形式や調和を重んじる古典派の反動から起こった音楽形式で、旋律や主題に重きを置き、形式を自由にして表現の幅を広げた。）に属する音楽家です。



ポーランド 5000ズウォティ 1992年

ショパンの作品とポーランド

ショパンの作品には、ポロネーズやマズルカが多く見られます。

これらは、ポーランドの民族音楽で、結婚式や祭などの行事で演奏されているものです。ショパンが7歳の時に作曲したのもポロネーズでした。

ショパンは20歳で郷里を離れて後、ポーランドに戻ることはありませんでしたが、ポロネーズやマズルカに限らず彼が作曲した作品には、望郷の念を込めるかのようにポーランドの民族音楽を感じさせる旋律が見られます。

周辺諸国の支配下にあることの多かったポーランドの人々にとって、ショパンは異国の地にあってもポーランドを象徴する音楽を作りつづけた偉大な作曲家として尊敬されています。また、5年に一度ワルシャワで開かれるショパン国際ピアノコンクールは、世界で最難関のピアノコンクールとして知られています。

ショパンにちなむ切手



18歳のときに入学したワルシャワ音楽院とショパン
ショパン没年100年
チェコスロバキア 300コルナ 1949年



ショパンとピアノ
中央ヨーロッパのポーランド返還記念
ポーランド 60グロシー 1955年



第15回ショパン国際ピアノコンクール記念
ポーランド 2.2ズウォティ 2005年

ドビュッシー / Claude Debussy

印象派に属するフランスの作曲家です。留学先のローマで作曲した交響的組曲「春」以降、印象主義者と呼ばれるようになります。代表作には「牧神の午後の前奏曲」をはじめ、「海」、「夜想曲」があります。

フランスのお札は、伝統的に文化人を採用しており、ドビュッシーもフランスを代表する音楽家の一人としてその列に名を連ねています。



フランス 20フラン 1980年

ヴェルディ / Giuseppe Verdi

イタリアを代表する、オペラ作曲家です。

彼の作品のほとんどがオペラで、イタリア・オペラの復興に功績をあげました。彼の代表作に「ナブッコ」、「アイーダ」、「オテロ」などがあります。彼の作品には自由を求める気風があり、当時イタリア統一運動が起こっていたことから、イタリア国内で人気が一気に高まりました。ヴェルディは、イタリアの愛国主義を象徴する人物として尊敬を集め、他の文化人とともにお札の肖像に採用されています。



イタリア 1000リラ 1962年

エルガー / Edward Elgar

エルガーは、「威風堂々」「愛の挨拶」でよく知られているイギリスの作曲家です。作曲家としては無名な時期がつつきましたが、「エニグマ変奏曲」やオラトリオ「ゲロンティアスの夢」作曲を機にイギリスはもちろん、ヨーロッパ中に名を知られるようになり、エドワード7世にも高く評価されていました。

イギリスのお札は、裏面に文化人などが描かれます。エルガーもそのうちの1人で、彼が長年過ごしたウスターの大聖堂や音楽の女神と一緒に描かれています。



イギリス 20ポンド裏 1999年

スメタナ / Bedřich Smetana

チェコの作曲家です。周辺諸国の支配下であり、民族の独自性を表現できない状況下にあったチェコ人の民族意識を鼓舞する曲を多く作曲しました。連作交響詩「わが祖国」が代表作としてよく知られています。

チェコスロバキアの高額のお札には、愛国的な活動をした文化人が描かれていますが、スメタナは、音楽を通して、チェコ国民にチェコ人としての自意識を強く訴えた人として尊敬を集めたため、お札の肖像に採用されたと思われます。



チェコスロバキア 1000コルナ 1985年

西洋音楽発展の中心/西欧・中欧

私たちが現在親しんでいる西洋音楽は、主にイタリア・フランス・ドイツを中心とした西欧・中欧で発展しました。そこで、これらの国は、一国を代表する人物として、音楽文化の発展に貢献した音楽家をお札に取り上げ、その業績を

国内外に示しています。

西欧や中欧では、西洋音楽の基礎を築いたルネサンス時代や古典派、その後の展開に大きな影響を与えたロマン派の音楽家が多く取り上げられる特徴があります。

ラッスス Roland de Lassus (1532-1594)



ベルギー 20フラン 1950年



ルネサンス時代のフランドル楽派の作曲家。ミュンヘンの宮廷楽長を務めながら、各地を精力的にまわりました。各地の音楽様式を反映した独自の様式を確立し、2000曲以上の作品を残しました。

ハイドン Franz Joseph Haydn (1732-1809)



オーストリア 20シリング 1950年



後のモーツァルト、ベートーヴェンとともにウィーン古典派の三大巨匠とされるオーストリアの作曲家。ドイツ古典音楽を確立し、とくに器楽の地位を高め、104曲の交響曲を残して「交響曲の父」といわれています。主な作品には、「ロシア四重奏曲」や、「ザロモン・セット」などがあります。

ベリーニ Vincenzo Bellini (1801-1835)



イタリア 5000リラ 表裏 1985年



イタリアの作曲家。19世紀前半、転換期にあったイタリア・オペラを刷新したロッシーニに続き、その水準維持に努めました。オペラ「夢遊病の女」や「ノルマ」で知られ、お札の裏面にもその「ノルマ」の場面が描かれています。

ベルリオーズ Hector Berlioz (1803-1869)



フランス 10フラン 1972年



フランスの作曲家。代表作「幻想交響曲」により、文学的・絵画的な表現と結び付き、その内容を示す跡をつけた標題音楽を創始。また、「近代楽器用法および管弦楽法」(1844年刊)を発表して、近代管弦楽の理論的な礎を築き、後世の音楽に幅広い影響を与えました。

ヨハン・シュトラウス2世 Johann Strauss II (1825-1899)



オーストリア 100シリング 1960年



オーストリアの音楽家・作曲家。「ワルツの父」シュトラウス(同名)の子で、独特な3拍子やアクセント、装飾などをもったウィーン特有のワルツを確立しました。「美しく青きドナウ」など170曲以上のワルツを残し、「ワルツ王」と呼ばれています。また「こもり」などのオペレッタ作品も残しました。

オネゲル Arthur Honegger (1892-1955)



スイス 20フラン 表裏 1994年



スイスの作曲家。第一次世界大戦後のパリで活躍し、プーランクらとともに「6人組」を結成、反ロマン主義に立ち、新古典派的な作品を残しています。お札の裏面には、代表作「バシフィック231」のモチーフである蒸気機関車(車輛)が描かれています。

民族主義音楽の隆盛／東欧・北欧・旧ソ連ほか

19世紀以降のヨーロッパで広まった自由主義・国民主義の精神は、音楽にも顕著に表れ、国民楽派または民族主義音楽と呼ばれる音楽が誕生しました。

西欧・中欧諸国が伝統的な手法で西洋音楽を発展させる一方、民族主

義音楽は、それまで国際的な舞台にほとんど登場しなかった東欧・北欧諸国で特に著しく、早い時期から現れます。その音楽は、民族的性格とその理想を表現する最善の方法としてとらえられ、作曲家たちは国民的な英雄として、お札に数多く登場しています。

モニューシユコ Stanislaw Moniuszko (1819-1872)



ポーランド
100000ズウォティ 表裏 1993年

ポーランドにおいて、ショパンと並び、ロマン派で民族主義音楽も取り入れた初期の作曲家。代表作は民族的なオペラ「ハルカ」や「幽霊屋敷」などです。お札の裏面には、指揮者を務めたワルシャワ歌劇場が描かれています。

グリーグ Edvard Grieg (1843-1907)



ノルウェー 500クローネ 1991年

ノルウェーの作曲家。自国の音楽的伝統に根ざした民族主義的な音楽を目指し、音楽協会を設立してノルウェー国民音楽の確立に主導的な役割を果たしました。イブセンの戯曲につけた劇音楽「ペール・ギュント」や多くのピアノ曲で知られています。

シベリウス Jean Sibelius (1865-1957)



フィンランド 100マルカ 表裏 1986年

フィンランドの作曲家。民族主義的な作品を多く残して、ロシアの支配下にあったフィンランドで国民的英雄となり、世界中にフィンランドの音楽が認められるきっかけとなりました。代表作は、お札の裏面に描かれたモチーフ「トゥオネラの白鳥」を含む「カレミア組曲」、「フィンランディア」などです。

ファリャ Manuel de Falla (1876-1946)



スペイン 100ペセタ 1970年

スペインの作曲家。スペインの民族主義音楽を推進し、芸術的に高めました。スペインは、ピレネー山脈で西欧諸国と隔絶された上、アラビア人の支配やロマの居住などの影響を受けて独特の民俗音楽をもっています。その音楽を取り入れたオペラ「はかない人生」、バレエ「恋は魔術師」などで知られています。

バルトーク Béla Bartók (1881-1945)



ハンガリー 1000フォリント 1983年

ハンガリーのピアニスト・作曲家。古民謡を研究し、従来ロマ音楽と混同されていたマジャール（ハンガリー）民俗音楽を区別しました。オペラ「青髪公の城」など民族色の濃い作品を残しています。その表現方法で、20世紀音楽に最大の影響を与え一人とされています。

ハチャトゥリアン Aram Khachaturian (1903-1978)



アルメニア
50ドラム 表裏 1998年

旧ソ連で活躍したアルメニアの作曲家。特に1942年、独ソ戦中に作曲した愛国的バレエ曲「ガヤネー」の中の「剣の舞」は、第二次世界大戦後に世界各地で爆発的な人気となりました。お札の裏面にも「剣の舞」の場面が描かれています。

民族色豊かな音楽/南米・アジア・オーストラリア

世界的な音楽の中心は、長い間ヨーロッパにありました。このため、ヨーロッパ以外の地域で活躍した音楽家で、国際的な知名度のある人物は多くありません。これらの地域

では、音楽家というよりも、国に貢献した人物として、お札に取り上げられる傾向が見られます。

ヴィラ＝ロボス

Heitor Villa-Lobos (1897-1959)



ブラジル 500クルゼイロ 1988年



ブラジルの作曲家。ヨーロッパの伝統的な技法とブラジルの民族的な語法を融合することに成功した、ブラジル音楽界の指導者です。代表作は「ショーロス」「ブラジル風バッハ」などです。

スプラトマン

Wage Rudolf Soepratman (1903-1938)



インドネシア 50000ルピア表裏 1989年



インドネシアの作曲家。国歌「インドネシア・ラヤ(偉大なインドネシア)」の作詞・作曲者として知られています。お札の裏面には、独立記念日における国旗掲揚が描かれています。

ファビーニ

Eduardo Fabini (1882-1950)



ウルグアイ 100ペソ 2003年



ウルグアイの作曲家・ヴァイオリニスト。ウルグアイの民俗音楽と後期印象派の音楽との融合を試み、交響曲「もろこし」などを残しました。ウルグアイ音楽界の中心的存在として活躍しました。

ゴメス

Carlos Gomes (1836-1896)



ブラジル 5000クルゼイロ 1980年



ブラジルの作曲家。ブラジルで成功を収めた後、ミラノでオペラ「グアラニー族」を上演し、民族的な要素を取り入れた作風で、イタリア・オペラ界に新たな表現法を提示しました。

アミュ

Ephraim Amu (1899-1995)



ガーナ 20000セディ 2002年



ガーナの作曲家・音楽学者。アフリカ音楽の要であるリズムを理論的に研究し、アフリカの民俗的な作品を残しました。最も有名な作品「yen ara Asase Ni」は、非公式ながら第二の国歌とされています。

バターンソン

Andrew Barton "Banjo" Paterson (1864-1947)



オーストラリア 10ドル 1993年



オーストラリアの詩人・ジャーナリスト。現在オーストラリアで最も知名度があり、過去に国歌の候補にもなった「ワルツィング・マチルダ」を作詞したことで知られています。曲は、スコットランド民謡を改作したものです。

楽器を描いたお札・西洋音楽に用いられる一般的な楽器

お札に描かれた人物や事物に関連する二次的なものとして取り上げられる例が多く見られます。

クララ・シューマンとピアノ



ドイツ 100マルク 表裏 1998年



ロベルト・シューマン(1810-56)
東ドイツ 20ペニー 1956年



19世紀末の最も優れたピアニストの一人とされるクララ・シューマンにちなみ、お札の裏面にピアノが描かれています。夫は、ロマン派の作曲家ロベルト・シューマンです。



シンガポール 50ドル 裏 1999年

多民族国家を表す楽器

中国のピーパー(琵琶)、マレーシアの太鼓コンパン、インドの弦楽器ヴィーナ、西洋のヴァイオリンは、それぞれの民族を象徴し、その集合体としてのシンガポール文化を表しています。



サクソとサクソフォーン

サクソフォーンは、ベルギーの楽器製作者サククスによって考案され、1846年にパリで特許を得ました。



ベルギー
200フラン 表裏
1995年



チェコのアオペラ歌手 デスティンと 音楽の女神 エウテルペー・楽器



チェコ 2000コルナ 表裏
1996年



オーストリア 1000シリング 表裏
1954年

ブルックナーと ザンクト・フロリアン修道院の パイプオルガン

ザンクト・フロリアン修道院はブルックナーの生家に近く、少年時代には聖歌隊の一員、後にはオルガニストを長年務めた、縁のある場所です。没後は自身の希望により、このオルガンの下に埋葬されています。



楽器を描いたお札・民族楽器

楽器を国や民族の象徴として重視し、楽器の演奏風景、または楽器そのものを大きく取り上げてお札に描いています。

アフリカの楽器



コンゴ民主共和国
5サンチーム 票
1997年



アザンデ族のハーブ



女性専用ハーブ(下)と
男性専用ハーブ・リュート(上)



モーリタニア
100ウギア 票 1989年

オセアニアの楽器



クック諸島 3ドル 1992年



楕型ドラム



ラオス 5000キップ 票 1975年

管楽器 ケーン



木琴 ラナート・エク

アジアの楽器

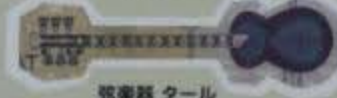


神太鼓 グフ



アゼルバイジャン
1マナト 2005年

弓奏楽器
ケマンチェ



弦楽器 タール



スリランカ 500ルピー 1995年



(左) 大小対の太鼓 タムマッカ
(右) 両面太鼓 グタペラ

ヨーロッパの楽器



アイルランド
50ポンド 票 1995年



バグパイフの一種
イリアンパイフ



セルビア
50ディナール 票 1941年



一弦楽器 グスレ



スウェーデン
50クローネ 票 2004年



鍵盤つきの弦楽器 ニッケル・ハルバ

日本のお札にみる音楽

日本のお札のなかで、音楽に関する図柄を採用しているのは、
国立銀行紙幣(旧券)10円の一例しかありません。

このお札には、雅楽を演奏する様子が描かれています。ただし、

この図柄の主題は音楽ではなく、天の岩戸開きの神話です。

岩戸の前で神々が音楽を演奏する場面を描いたものです。



国立銀行紙幣(旧券)10円 明治6(1873)年

①太鼓

お札に描かれているのは、釣太鼓と呼ばれ、脚のついている木の枠に太鼓をついているもので、楽器の合奏のときに使われます。

雅楽で使われている楽器



国立銀行紙幣(旧券)10円の図柄の参考となった雅楽演奏図
エーメ・アンペール著「Le Japon illustre」より

②箏

長さ18cmほどの竹製の縦笛です。表に7つ、裏に2つ穴があり、それらの穴を指で押さえながら、葦でつくったリードを吹いて音を出します。息の強さやリードのくわえ方によって音を調節できるのが特徴です。雅楽の合奏では、主旋律を奏でます。

③横笛/篳篥

竹製の管楽器で横にかまえて吹きます。箏葉に比べて広音域の音が出せるので、主旋律を彩る裝飾音を受け持ちます。雅楽に使われる横笛には、ほかに高麗笛・神楽笛があります。

④笙

管楽器のひとつ。籠と呼ばれる、木製の椀型に蓋をしたものに17本の竹の管を押し込んだものです。それぞれの管の根元にはリードがついていて、息を吹き込んだり、吸い込んだりすると、それが振動して音が出ます。和音を奏するのに使われます。

⑤羯鼓

打楽器の一種。木製の椀型の胴の両側に皮を張ったものを木製の台に載せ、ばちで打って音を出します。